

# 国立大学法人岐阜大学 完了報告書

## 1. 調査研究概要

外国語教育の充実と授業時数の確保のため、教科担任制と45分の授業を活用した、よりよいコミュニケーションを求め続ける児童の育成を目指す「外国語科」の開発を行うことと、時間割編成の弾力的な運用を行うことにより、60分の授業を活用した、「見方・考え方」を働かせて、学びを深める児童の育成を目指すカリキュラム・マネジメントを推進することを研究の重点とし、研究に取り組んだ。

外国語科の開発では、評価方法の工夫や学習内容のつながりを意識した単元構成の工夫、45分の授業を最大限に生かせる学習活動の工夫を行った。60分授業を活用したカリキュラム・マネジメントでは、単元の最初や最後に60分授業を充てる時に、学習活動を工夫することによる単元計画の工夫や、60分の授業を最大限に生かせる学習活動の充実によって、必要な資質・能力を育むことにつなげた。

外国語科の時間に行ったスピーキングテストの結果から、話す時の間違いが非常に少なく、よりよいコミュニケーションを求めようとする姿が見られた。学習意欲では、60分授業を実施していない3年生に比べ、4～6年生の学習意欲を高い水準で維持できた。教職員の業務の視点から、時間割編成をする際に大きな混乱はなかったが、60分授業を含んだ年間指導計画を考える際に費やす時間や負担が大きいことが課題として見られた。

### (年間実施スケジュール)

| 月   | 取組内容   |
|-----|--|
| 4月  | ・学習意欲に関わるアンケート（第1回）の実施【実践前の実態把握】   |
| 5月  | ・ <u>11日（金）全校研究会（5年生・外国語科）</u> 【検証授業】<br>・研究推進委員会（全校研究会の検証、中間研究会での論点確認）                                  |
| 6月  | ・ <u>23日（土）中間研究会</u> 【検証授業】<br>・研究推進委員会（中間研究会の検証）  |
| 7月  | ・研究推進委員会（公表会の見直し・資料・指導案枠、成果刊行物の検討）<br>・公表会資料、指導案作成   |
| 8月  | ・研究推進委員会（公表会資料・指導案検討）  |
| 9月  | ・外国語科スピーキングテストの実施【成果等の検証】<br>・カリキュラム・マネジメント検討会議（公表会日程、資料、指導案 確認）<br>・研究推進委員会（全校研究会の検証、公表会資料・指導案 確認）      |
| 10月 | ・学習意欲に関わるアンケート（第2回）の実施【成果等の検証】<br>・60分授業に関するアンケートの実施【成果等の検証】<br>・公表会資料完成、発送<br>・研究推進委員会（公表会の確認、成果刊行物の確認） |
| 11月 | ・ <u>10日（土）カリキュラム・マネジメント公表会</u> 【授業公開】<br>・授業者アンケートの実施【成果等の検証】<br>・研究推進委員会（公表会の検証）                       |
| 12月 | ・成果刊行物資料作成<br>・研究推進委員会（調査研究のまとめ）   |

|    |   |
|----|---|
| 1月 | ・カリキュラム・マネジメント検討会議（調査研究の検証，成果刊行物確認）<br>・研究推進委員会（成果刊行物資料 検討） |
| 2月 | ・成果刊行物の製本作業，刊行物の配布（全県下教育委員会，小学校等）                           |
| 3月 | ・研究推進委員会（次年度の時間割編成等）  |

## 2. 調査研究の内容

### 2-1 調査研究の内容

#### 【研究内容1】外国語科の開発

- ① 5，6年生においては，週2コマ（45分×2）の外国語科の授業を行う。チームティーチングで実施することとし，専科の教科担任と学級担任，ALTが入り，2～3名で授業を行った。
- ② 短時間学習ではなく，45分の授業で行うことで，評価方法の工夫を行い実践した。
- ③ 学習内容のつながりを意識した単元構成を行った。
- ④ 45分の授業を最大限に生かせる学習活動の工夫として，
  - A) 「聞くこと」では，対話活動をする中で，「相手の話していることを聞き取り理解する」能力と，「自分の考えや気持ちを再構築し相手に返す」能力の両面を育むために十分な時間を確保した。
  - B) 「読むこと」では，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味がわかるようにするために十分な時間を確保した。
  - C) 「書くこと」では，単調な繰り返しの学習ではなく，何らかの書く目的をもたせたり，ゲーム的要素を取り入れたりした。

#### 【研究内容2】60分授業のカリキュラム・マネジメント

- ① 4，5，6年生においては，週28時間の授業数の中で外国語活動・外国語科の授業を2コマ生み出すために，学級担任が行う60分授業を週3コマ入れ込み，外国語活動・外国語科の1コマ分を生み出した。
- ② 単元の最初に60分授業を充てる時には，15+45分で展開を構成し，「どんな力（資質・能力）を付けることを目指しているか」を児童と共通理解する時間，所謂ガイダンスの時間を作ることで，学びのつながりの意識をもたせた。
- ③ 単元の後半に60分授業を充てる場合は，45+15分で展開を構成し，学習活動を振り返った後に発展的内容を加える，発展的課題に挑戦する，比較材料を与え，学んだことの活用を図る等，学びの深まりにつながっていくようにした。
- ④ 単元マネジメントを行うことで，年間標準時数内で，言語活動に特化する時間を設定したり，発展的な内容を仕組んだりすることができ，教師の育みたい資質・能力に合わせた創造的な授業づくりを行った。
- ⑤ 60分の授業を最大限に生かせる学習活動の工夫として，
  - A) グループ内で比べるだけでなく，グループ間で比較する，繰り返しの活動の中から自分の願いに合ったものを選ぶなど，選択肢を増やしてよりよいものを求められる学習活動を仕組むことで，主体的な学びに必要な資質・能力を育むことにつなげた。
  - B) 小集団活動のメンバーを変える，批判的思考のスキルを取り入れる，中間研究会の仕組みを変える等，小集団による学習活動の充実によって，対話的な学びに必要な資質・能力を育むことにつなげた。

## 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

- ・平成30年9月に実施した外国語科スピーキングテストを5年生と6年生で比較した結果、決まった表現方法にとらわれず、様々な語句を使う姿に大きな差が見られた。正しい表現で話そうとする姿、付加情報を付けて話そうとする姿では大きな差が見られなかったが、間違いが非常に少なく、よりよいコミュニケーションを求めようとする姿が見られた。
- ・学習意欲に関するアンケートを平成30年4月と10月に実施し、比較した結果、60分授業を実施していない3年生に比べ、4～6年生の学習意欲を高い水準で維持できたことが明らかになった。
- ・60分授業に関するアンケートを平成30年10月に実施した結果、約70%の児童は、60分授業を楽しんでいると感じ、授業自体を肯定的に受け止めていた。一方で、学級によって大きな差が見られ、60分授業を設定している教科によって違いがあると考えられる。
- ・学習意欲に関するアンケートの結果と、60分授業に関するアンケートの結果の相関関係を見ると、60分授業を行うことで、その授業を肯定的に受け止め、個々の学びや仲間との学びが促進されたと感じた児童は、学習意欲も高い水準で維持できた。
- ・60分授業での姿と、全国学力・学習状況調査の結果を総合して、課題に対して粘り強く取り組む姿を育むことができ、自分の考えを工夫して発表しようとしたり、仲間との話し合いから、自分の考えを深めたり、広げたりする児童が増えたことが明らかになった。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- ・45分授業を仕組みすることで、授業の終わりにコミュニケーションの変容を確認する活動と、よさを認め合うペア活動を位置付けることができ、自己の学びの変容を自覚したかどうかを教師が評価することができた。
- ・これまでの日課を大きく変更することなく、教育課程を仕組みることができた。
- ・本校の伝統的な文化活動を行っている朝活動の時間の確保できた。
- ・週のコマ数を増やすことなく外国語科を週2コマ分確保できることにより、事務処理や会議の時間を生み出すことができた。
- ・時間割編成をする際に大きな混乱はなかったが、教科担任制を行う場合の時間割の編成や60分授業を位置付けた場合の時数計算、60分授業を実施する教科の決定方法に難しさがある。時数計算については、表計算ソフトの活用を図っていく。教科の決定方法は、実施した教科の実践内容を踏まえて、授業者が選択できるようにしていくか、全校で実施する教科を揃えていくかを検討していく。
- ・60分授業を含んだ年間指導計画を考える際に費やす時間や負担が大きい。この仕組みを続けていく中で、年間指導計画を蓄積していく。

(地域との関係の視点から)

- ・外国語科の導入により、1時間増をどう取り扱うのかが各学校における課題であるが、60分授業×3でその分を補うだけでなく、カリキュラム全体を見直している点を参考にしていた。
- ・研究構想を理解していただけたら、授業内容の工夫について、肯定的に受け止めていただけたら一方、実現可能性については、自分の学校に置き換えると様々な事情で難しいと感じ

じている。この仕組みのよさを理解していただけるような実践を進めていく。

- ・ 実践を通しての研究であり、とても説得力がある。また、+15分の使い方の工夫が、授業の中の児童の姿で表れていると評価された。
- ・ どんな力を身に付けさせるかを子どもの姿で明らかにした、単元指導計画を参観者は求めている。単元指導計画の充実を図っていく。
- ・ 総コマ数ではなく、総時間数としてカリキュラムを捉えることも今後検討していく。

## 2-3 (実践校における年間実施スケジュール) ※年間実施スケジュールと同一の為、省略

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

(子供の視点から)

- 平成30年9月に実施した外国語科スピーキングテストを5年生と6年生で比較した結果、決まった表現方法にとらわれず、様々な語句を使う姿に大きな差が見られた。正しい表現で話そうとする姿、付加情報を付けて話そうとする姿では大きな差が見られなかったが、間違いが非常に少なく、よりよいコミュニケーションを求めようとする姿が見られた。
- 学習意欲に関するアンケートを平成30年4月と10月に実施し、比較した結果、60分授業を実施していない3年生に比べ、4～6年生の学習意欲を高い水準で維持できたことが明らかになった。
- 授業を肯定的に受け止めているかどうかは、学級によって大きな差が見られ、60分授業を設定している教科によって違いがあると考えられる。学年による違いなのか、教科による違いなのか、授業者による指導方法の違いによるものなのかをより細かく分析していく必要がある。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- これまでの日課を大きく変更することなく、教育課程を仕組むことができた。
- 本校の伝統的な文化活動を行っている朝活動の時間の確保できた。
- 週のコマ数を増やすことなく外国語科を週2コマ分確保できることにより、事務処理や会議の時間を生み出すことができた。
- 教科担任制を行う場合の時間割の編成や60分授業を位置付けた場合の時数計算、60分授業を実施する教科の決定方法に難しさがある。時数計算については、表計算ソフトの活用を図っていく。教科の決定方法は、実施した教科の実践内容を踏まえて、授業者が選択できるようにしていくか、全校で実施する教科を揃えていくかを検討していく。
- 60分授業を含んだ年間指導計画を考える際に費やす時間や負担が大きい。年間指導計画を蓄積していき、全職員で活用できるようにする。

(地域との関係の視点から)

- 外国語科の導入により、1時間の増をどう取り扱うのかが各学校における課題であるが、60分授業×3でその分を補うだけでなく、カリキュラム全体を見直している点を参考にしていた。
- 実践を通しての研究であり、とても説得力がある。また、+15分の使い方の工夫が、授業の

中の児童の姿で表れていると評価された。

- どんな力を身に付けさせるかを子どもの姿で明らかにした，単元指導計画を参観者は求めている。単元指導計画の充実を図っていく。

（設置者（教育委員会など）の視点から）

○外国語科の教科担任制で行うことで，専科教員は，その専門性に依る「豊富なボキャブラリー」と「質の高いセンテンス」を生かし，目指す姿に迫ることができる授業を仕組むことができ，外国語科の教科担任制を推進する役割を果たした。

- 本校で帯活動による外国語科を行っていないので，比較検証での話はできない。他校の実践と比較検証する機会を作っていく。